

2019-20年度 R I テーマ
 ROTARY CONNECTS THE WORLD
 ロータリーは世界をつなぐ



R I 会長
 マーク・ダニエル・マローニー

TAKEHARA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN 竹原ロータリークラブ週報

会長	宮本 和彦	会計	田中 幸俊	管理運営	本庄 純夫
会長エレクト	久藤 孝仁	S A A	三好 静子	会員組織	堀越 賢二
副会長	山根 積	副S A A	金澤 節生	奉仕	吉本きよ子
幹事	山根 積	直前会長	板場 英行	広報	大成 義彦
副幹事	三好 静子			R 財団	野田 眞治

事務局/〒725-0026竹原市中央4丁目8-2第1 おおぎビル102号

TEL/0846-22-7570 FAX/0846-22-7651

E-mail/rc-take@estate.ocn.ne.jp

http://www.takehara-rc.com

例会日/毎週木曜日12:30~13:30

例会場/大広苑 TEL(0846)-22-2970

本日のプログラム 9月19日

ガバナー公式訪問

次週のプログラム 10月3日

誕生祝・各会員各記念日祝
 誕生月該当者会員卓話

歓迎

晝田眞三ガバナー公式訪問

<広島空港ロータリークラブ/竹原ロータリークラブ合同>

国際ロータリー第2710地区 ガバナー 晝田 眞三様 (福山 RC)
 随行幹事 浅利 和男様 (福山 RC)
 G9 ガバナー補佐 三宅 宏様 (尾道東RC)
 補佐幹事 岸上 幸由様 (尾道東RC)
 補佐幹事 齋藤 幸恵様 (尾道東RC)

スケジュール 会長幹事懇談会 11:30~12:00 例会 12:30~13:30
 集合写真 13:30~13:40 フォーラム 13:40~15:10

【2019年9月12日 第2671回 例会記録】

- 点 鐘
- ロータリーソング: それでこそロータリー
- 会員数: 24名 (免除者: 3名)
- 出席者: 19名 欠席者: 4名
- メイク: 1名 出席率: 83.33%

スマイルボックス

- 結婚記念日...久藤
- 特別スマイル
 - ・プレ公式訪問も無事終わり、いよいよ次週はガバナー公式訪問です。皆様宜しくお願ひ致します。(宮本和彦)

クライングボックス

- ・先週は突然に例会を欠席し申し訳ありません。(佐藤守幸)

会長の時間

会長 宮本 和彦



郵便局が民営化されて12年を迎え、旧国鉄は32年が経ちましたが、画期的なコラボレーションが展開されるという記事をご紹介します。見出しは、「乗車券やsuicaの販売など駅窓口業務を行う郵便

局の誕生」となっており、その内容は、全国初の郵便局が無人駅となっていたJR東日本の内房線江美駅に来年8月に開局する予定となった。これは、昨年6月の「日本郵便とJR東日本の地域・社会の活性化に関する協定」に基づくものです。窓口業務を合体するのは、今年7月から無人駅となった千葉県鴨川市を走る内房線江見駅と、そこから徒歩1分の場所に位置する江見郵便局。江見駅は大正11年に、江見局は昭和38年にそれぞれ建設されたが共に老朽化による建て替え時期が重なったもので、土地は

JR、局舎は日本郵便が保有し、駅員は不在で局員が普通乗車券、定期券、無記名式suicaの販売や精算業務、列車や運賃の案内を行う。双方のメリットとしてJR東日本は無人駅を有人化でき、日本郵便は乗降客を営業時間内に送り迎えしながら窓口を開設でき。地域の利便性を高め、手数料をユニバーサルサービス維持に役立たせられる。「郵便局と駅の機能連携」は“共生”が必須の人口減少に地方創生の架け橋となる新しいインフラ形として全国に拡がりそうだ。と結んでおりました。

委員会報告

□創立55周年実行委員会 委員長 鴨宮弘宜
例会前に第4回創立55周年実行委員会を開催しました。例会後の理事会に内容を諮ります。

誕生日該当者会員卓話



会員 木村 安伸

先週の第1例会では、今月各記念日を迎える我々を祝って頂きまして有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。私は、27日に満80歳の誕生日、所謂“傘寿”を迎えます。

我が家では、祖父が50代前半で亡くなっています。死因は、恐らく癌だったのでしょう。父は、69歳で胃癌の手術を受け、10年後に79歳でなくなっておりますので、私が、男で初めて80歳代まで生存することとなりました。世の中に生かされているたった一度だけの人生ですので、これからも利他の心を持って奉仕が続けられるように心掛け、生活をエンジョイして行きたいと思うところです。

厚生労働省が、7月30日に発表した2018年の日本人の平均寿命は、女性が87.32歳、男性が81.25歳で、ともに過去最高を更新したそうです。厚生労働省は、「日本人の三大死因であるガンや心疾患、脳血管疾患などの死亡率の低下が平均寿命を延ばしている。健康意識の高まりで、さらに寿命が延びる可能性がある」と分析しています。これからも皆さんと共に“健康長寿”を目指しませんか。

10年前に101歳でお亡くなりになられた南無の会の松原泰道老師は、「90歳代まで生きれば眠るが如く死ぬ」と言われています。私は、今これを目標の一つにしています。

さて、傘寿を迎えましたので、日本経済新聞の「私の履歴書」に倣い、私のこれまでの半生を振り返っ

てみたいと思います。退屈でしょうかどうかお付き合い下さい。

私は、昭和14年（1939年）9月27日に現在の住所で生まれました。昭和19年4月竹原幼稚園に入り、2年後、終戦の翌年昭和21年に竹原小学校に入学、その後竹原中学校、竹原高等学校で学びました。それから昭和33年4月関西大学商学部に入學し、4年後に卒業しましたが、4年間は専ら麻雀、パチンコ、酒を学ぶことに現を抜かしていた学生生活だったように思います。

そのような訳で、昭和33年3月に入った会社は、大阪に本社を置き主に国内の貨物船、タンカー、化学薬品運搬船等を運航する内航の海運会社でした。入社後は、総務課、船員課、企画室等で色々業務を経験しました。

27歳の時見合い結婚をして、一男一女を授かりました。

大阪万博が過ぎた頃からは関西経済界の地盤沈下が進み、荷主、商社等の営業拠点が次第に東京に集中しだしました。既に、外航海運業にも進出していた会社も営業の主力を東京に移転させたのに伴い、昭和48年4月、私も東京へ転動しました。

ところが、その年の秋にスーパー等の店頭からトイレットペーパー、洗剤等が無くなる第1次オイルショックが起こり、海運界にも不況が襲って来ました。そのような状況の中、昭和47年5月に実現した沖縄の日本復帰3年前の昭和44年に沖縄本島中央部に位置し、太平洋側の金武湾の奥にある石川市（現在はうるま市）に那覇市の会社と合弁（当時は、単独で沖縄へ進出出来ない時代でしたから）で設立していたタグボート業を営む子会社の支配人から、体調を崩したので業務を補佐して欲しいとの依頼を受けまして、昭和50年4月35歳の時に家族と一緒に沖縄に移住し、子会社に出向しました。

その年の7月からは、沖縄の日本復帰を記念して「沖縄海洋博」が開催され、4月に広島女学院大学を卒業した妹が一番人気の高かった水族館のコンパニオンとして勤務し、半年後竹原に帰りました。当初、私が計画していた出向期間は4～5年程度の積りでしたが、着任1週間後に支配人から暫く千葉で静養したいとの申し出を受け、これに同意しました。ところが、彼は1か月後急逝し、業務の引継ぎも無いままでしたので、全く困り果ててしまいました。全く突然のことでしたが、改めて覚悟を決めて何とか私一人で会社の運営を引き継いで行くことに決心しました。

子会社の主な業務は、アメリカのメジャーオイル社の一つのガルフオイル社が金武湾の沖合の平安座島に建設した原油中継基地で、中近東から超大型の原油タンカー（20万～30万トンクラス）が運んで来た原油を基地の原油タンク（1基10万KL、16

基)に揚げて貯蔵し、それを中型タンカー(10万トン前後)で本土の製油所へ輸送するのですが、これらのタンカーが石油栈橋に着いたり離れたりする際にタグボート数隻を使って着離栈作業を行ったり、基地付近の海上に於ける防災並びに警戒業務を行うものでした。

暫くすると、第2次、第3次のオイルショックの発生等により経済が悪化し始め、石油業界も縮小が始まり、原油の中継業務も次第に減少するようになりました。

そうした中、隣接の石油基地専属の同業者でライバル会社が当社側の石油基地に、タグボート業務を任せて欲しいとアプローチを掛けて来ました。当社は、やがて創立20周年を迎える前でしたので、社員の意識改革を進める為に社員全員が自己啓発セミナーを受けて、会社の基盤強化に取り組んでいるところでした。そんな訳で、社員全員が一致団結して関係先に猛烈な反対運動を展開しました。その結果、この問題は沙汰止みとなり、次第に落ち着きを取り戻しました。私としては、この危機を克服出来たことである程度成長の糧となりました。

それ以降は、湾内にある米軍栈橋での米国艦船の着離栈作業が増加し、又新たに建設された電源開発の石川石炭火力発電所栈橋での石炭運搬船(6~7万トン)への着離栈作業が加わったりしました。更には、本来のタグボートによる船舶の着離栈作業のみならず、沖縄近辺で発生した海難救助作業、浚渫船、台船、大型ケーソンドックの港湾作業船等を離島、本土、台湾、韓国方面への曳航作業もこなすようになり、次第に沖縄に於けるタグボート業者としてトップの地位を築くことが出来ました。

会社は、幾度となく困難に直面しましたが、都度社員と結束して問題を克服して来ました。

私の出向以来会社は一度も赤字を出すこと無く、黒字を確保出来ましたし、私も、丸30年間働かせて頂き65歳に達しましたので、平成17年3月末日を以て退任し、竹原に帰って来ました。

嬉しい事に、本年12月1日沖縄のタグボート会社は創立50周年を迎える事となり、私は、その祝賀会に招待を受けていますので、今からその時を楽しみにして待っています。その際は、労苦を共にした沖縄の仲間達と大いに語り合い、美味しい島酒(泡盛)を飲み交わす積りです。

帰郷して半年後、竹原ロータリークラブに入会させて頂いて以来、今月で丸14年が経ちます。今後もロータリー仲間として宜しくお付き合いをお願い申し上げます。

最後に、世界的な脳神経解剖学者で、京都大学総長も務められた平澤 興先生の言葉を紹介します。

「人は単に年をとるだけではない。どこまでも成長しなければならぬ」です。私は、この言葉をこ

れからも強く肝に銘じて進んで参ります。これで終わります。どうも有難う御座いました。

理事会報告(9月)

□日 時 令和元年9月12日(木)

□場 所 大広苑

□出席者 10名

□議 題

①公式訪問フォーラム次第の件 承認

②職場例会の件 承認

③ポリオプラスの件 承認

各4,000円集金させていただきます。

④広島県防犯連合会賛助会員会費納入の件 承認

10,000円

⑤創立55周年の件 承認

日時 令和元年12月8日(日)18時

場所 大広苑

(別紙資料配布)

⑥令和元年8月九州北部豪雨災害義捐金の件 承認

⑦11月28日R財団担当例会外部卓話の件 承認

講師:ロータリー財団監査委員会

委員 八百谷 俊昭様(岩国西RC)